

令和6年度 第1回岡崎城跡整備委員会会議録

開催日時：令和6年5月20日（月）午後2時00分～午後4時00分

開催場所：岡崎市役所 東庁舎6階 601

出席委員：6名

瀬口哲夫委員（委員長）・杉野丞委員・三浦正幸委員・中井均委員・丸山
宏委員・奥田敏春委員

欠席委員：堀江登志実委員

説明のために出席した事務局職員：10名

社会教育課：二村雅志教育部長・田中典子課長・原林基昭副課長

遠藤研吾岡崎城跡係係長・久野千秋主事・平山優主事

公園緑地課：近藤淳公園活用係係長・森大輔主査

ゼロカーボンシティ推進課：植村信幸事業企画係係長、西田淳史主事

傍聴者：なし

次第

議題

- （1）令和5年度事業報告について
- （2）令和6年度事業計画について

報告

- （1）岡崎城天守閣投光器更新について
- （2）大手門投光器更新について

議事内容

- （1）令和5年度事業報告について

事務局：配布資料1に基づき説明

【質疑応答】

委員：ガラス棒が割れたのは極めて人為的だという話があったが、人為的な割れ方とはどのようなものか。石垣に敷設するために入れているので、割れていたことは重要な問題である。

事務局：石垣が変状した場合にはガラス棒が外側に割れるであろうという付け方をしていた。それが側面から叩いたような割れ方をしていた。この状況から、石垣の変状による割れ方とは考えづらく、人為的なものと判断した。

委 員：割られた場所は、また同じ場所にガラス棒を設置するのか。また割られるのではないか。

事 務 局：設置業者に確認し、もう少し高い場所に追加設置したほうがいいのかという助言を受けたので、今後はその方針である。

委 員：伐採されたクロマツは、その後どのような処置をしたのか。

事 務 局：抜根はせず、切ったそのままの形で管理している。

委 員：樹木が腐るとそこから水路ができることがある。よく観察して、腐ってきたら砂利などで埋めるべきである。伐採した後の経過処置をどうするか考えてほしい。石垣を毀損する樹木を伐採しているが、その予定だけでなく伐採後の処理を報告してほしい。

事 務 局：公園緑地課と相談しながら行っていく。

委 員：龍城堀の石垣崩落について、岡崎城全体で石垣が延べ何キロあり、そのうちの何パーセントくらいを図面や写真で残しているのか。

事 務 局：石垣の全部の面積がどれくらいで、測量の進捗が何パーセントかというのは分からないが、かなりの石垣で測量が進んでいる状況である。

委 員：本丸御門石垣の崩落について、写真で見ると下の石垣の石が小さいと思われる。栗石を詰めるのはこのような工法でいいのか。

委 員：良くないと思われる。上の方の石が大きいということは重心が後ろである。上の方からくる力と下の方からくる力でずれてくる。効果がないと思う。

委 員：これは復旧を目的とした工事か。

事 務 局：栗石は充填材として入れているがそれ自体で支えるというよりは大きな石を入れており、それによって下から支えるようになっている。栗石は中に空力ができないようにという理由で充填している。また、崩落箇所に対して修復範囲が広いが、写真で示した箇所より左側でも空間ができており崩落の危険性があつたので同じように修復している。

委 員：経費の問題もあるが、このようなやり方が岡崎城で行われるのは困る。この件も、どのような修復を行うか委員会で検討していない。

事 務 局：委員会の終わった後であり、緊急の対策として、個別に相談させてもらったうえで実施した。

委 員：専門の先生もおられるので、指導を受けて修復すべきだったように思う。

委 員：緊急というのは、人に危害を及ぶ可能性があるからと思うが、やり方として、崩れたら土のうを積むなどの応急処置をして人が入らないようにするなどの処置をしてから委員会に諮ってどのような修復をしていくかという議論があつていいと思う。

委 員：説明にあつた「鋼管等による補強を行った」とはどのようなことか。

事務局：崩れた石垣の下部を調査する過程で、崩落の恐れがありそのままの状態
で調査するのが難しかった。そのため仮設の鋼管類を設置して、調査中に
石垣が崩れてくることが無いよう支えとして設置した。

委員：力石と言われる大きな石を築石の下に挿入したのか。

事務局：そうです。また、今回崩れた場所は、表面が張石のように、薄く小さい
石が張られていたので、それが崩れたと思われる。張石の下に石垣はなか
った。

委員：石垣がなかったということは、これはもともと土手、土居で、土居が途
中から石垣になっているものだったと思う。土手土居のはみだしたところ
を何らかの理由で削ってしまったので、石垣の下に積む石がない状態に出
てしまい、それで崩れたと思う。復旧するときは土手土居の本来の位置ま
で復旧しなくてはいいけない。また、復旧するときは周辺を発掘調査して、
どこまで土手土居だったか確認すべき。今回は仮復旧ということで理解し
ている。

委員：龍城堀の水位の調整は、どう行っているのか。

事務局：龍城堀の南面にポンプがあり、排水と取水・入水をしている。

委員：ポンプは、どこか川から水をとっているのか。

事務局：調査期間中は、入水を止めて、赤い橋のたもとに排水用のポンプがある
のでそこから菅生川に排水した。

（２）令和６年度事業計画について

事務局：配布資料２に基づき説明

【質疑応答】

委員：石垣測量について、まだ実施していない箇所は分かるか。

事務局：行っていない場所は示していない。

委員：場所が分かる資料があるとよい。もうほとんど終わったのか。

事務局：終わっていないのは南切通しや菅生川端石垣、坂谷曲輪などである。

委員：岡崎城天守閣展示スペースとは、どこのことか。

事務局：２階の階段を上がった１８０度反対側である。

委員：考古の展示スペースのことか。

事務局：そうです。現在は菅生曲輪で発掘した時の遺物が展示してある。

委員：坂谷曲輪の整備について、近い将来どのように整備していくか検討はし
ているのか。

事務局：本年度は、県との調整を始めたばかりで厳しいことも言われている。必
ずしも来年とは断言できないが、市としては整備に向けて動いているところ
である。

委員：坂谷曲輪全体が河川区域なのか。

事務局：園路から河川側は河川区域と聞いている。

委員：河川区域の変更はできないのか。

事務局：土地の所有は国と聞いている。

委員：30年先や50年先などは河川区域から外すことは考えられるのか、それは考え方としてあり得るのか県に聞いてみてほしい。

事務局：話をした様子だと、ここを公園治水にしないとコントロールはできないし、障害となるものを認めることはできないと言われた。

委員：整備といってもいろいろなレベルがある。ここは写真もあるし、調査で礎石も出てきているので、建物復元まで考えられる可能性もある。岡崎市としてはどのような方向を向いているのか、整備委員会では提示していただきたい。全体の整備のなかで坂谷門がどのような位置付けになるかまで考えながら、どの程度の整備になるかこの場では考えてもいいと思う。

委員：河川空間という事をいったん置いておいて、こんなことができるのではと提示する。その中で現実的な条件をみて、案を変えていくような検討の仕方でもいいのではないか。

委員：岡崎城の整備をするにあたり、ここがどれだけ重要か認識してほしい。ここの位置付けをしっかり行い、復元的整備も含めてこの委員会で考えていくべきである。また、樹木伐採について、1度伐採計画を出してもらったが、全部伐採するのに20年かかる計算だった。日常管理だけではなく、伐採についても計画を立てて行っていないといけないと思う。岡崎城の価値を高めるための作業計画であると認識してほしい。また、松ならクロマツと表記してほしい。

報告内容

(1) 岡崎城天守閣投光器更新について

事務局：配布資料3に基づき説明

【質疑応答】

委員：岡崎城天守閣、に言い方を変えたのか。根拠があるのか。

事務局：正しい表記にする。

委員：世界自閉症啓発デーは1日か。

事務局：1週間から10日など、ある程度の期間である。

委員：シンボルカラーは何色か。

事務局：青色だったと思う。

委員：自閉症啓発デー以外にも他の啓発デーにも他の色を使うということか。

事務局：現状、年3回程度行っており、シンボルカラーのテープを貼っている。

委員：一般的に世界自閉症啓発デーのシンボルカラーが青色と分らないのでは。

事務局：施策の担当課が報道発表したり、HP等で案内を行っている。

委員：資料の下段、「持続可能な江戸のまちづくりを行った家康公」という表現は正しいか。

事務局：家康公を顕彰するプロジェクトを全庁を挙げて行っており、江戸の街がサステイナブルな生活をしていたという点で家康公にまつわるプロジェクトの一環として行っていく。

委員：世界自閉症啓発デーはどこの団体が申し出をしているのか。ライトアップの申し出をする団体を確認すべき。

事務局：世界自閉症啓発デーについては国連が定める期間である。おそらく、国連から国、そして各自治体に取り組みの投げかけがあり、担当課が実施していると思われる。

委員：岡崎市はいくつキャンペーンを行っているのか。それは何か。

事務局：3回程度である。世界自閉症啓発デーと、女性の乳がん予防啓発であるピンクリボン、あとはスポット的に担当課の要望である。

委員：スポット的な、というのは何か。

事務局：観光PRしたい、などである。

委員：今回は投光器の更新であって、活用は次の段階、また別の話ではないか。

委員：次の段階といってもこれはプロポーザルだからやれることを書いてもらわないと設備が分からない。今回は、何色できるかが重要で、色をどう使うかプロポーザルで提案してもらう。それを市が選ぶ。

委員：啓発の中身についても、プロポーザルで募集するのか。

事務局：その予定である。民間の知恵を提案いただければありがたい。

委員：それをそのまま採用するのか。

事務局：市で責任をもって、良い使い方を考えていく。

委員：投光器が新しくなって、いろいろなイベントに使われるのは問題ない。

事務局：市にあまり関係ないものや、よく分からない使い方は市の方でコントロールしていく。

（２）岡崎城大手門投光器更新について

事務局：配布資料４に基づき説明

【質疑応答】

委員：天守はキャンペーンに使われるが、大手門も同じキャンペーンに使われるのか。

事務局：現状は行っていないが、できるようになるので行う可能性もある。

委 員：脱炭素になるなら、このLEDにすることによって何パーセント効果があつたのか書いてもらえれば分かりやすい。また、予算的なメリットがどれくらいあるのか。

事 務 局：岡崎城天守については、試算で、年間で50万円弱くらい削減できる。

委 員：現行より何パーセント電気消費量は削減できるのか。

事 務 局：75パーセントほど削減できるのではないかと思う。大手門のほうはすぐ数字がでないが、同じ水銀灯なので同じくらいの割合だと思われる。

委 員：天守も大手門もライトアップを行うとして、それぞれで色が異なる、というようなことはないか。使い方についても、どのような方法が1番アピールできるか話し合って決めてほしい。

事 務 局：しっかり調整して行っていく。

委 員：大手門の投光器は6灯も必要か。

事 務 局：既設は6灯である。確かに面積あたりでいくと若干多いので、おそらく大手門のほうが明るいと思う。

委 員：イニシャルコストはどうか。

事 務 局：熊本城の写真はあくまで参考で付けた。資料3と資料4のライトの例が違うものになっているが、同じものがつくと思う。